

## 「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	慶應義塾大学	整理番号	B04
プログラム名称	グローバル環境システムリーダープログラム		
プログラム責任者	真壁 利明	プログラムコーディネーター	清木 康

### (評価決定後公表)

#### (総括評価)

計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

#### [コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、材料分野と環境政策の組み合わせなどを中心に、具体的な環境問題に即してメジャー（主専攻分野）とマイナー（副専攻分野）が選択され、研究科間および教員間の有機的な連携が図られており、長年懸案とされてきた文理融合型のリーダー育成に資する実効的な学位プログラムと評価でき、更なる発展が期待される。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、国際的な産・学・NPOなどと連携した研究指導體制、海外48の連携・提携機関に原則として修士で3か月間、博士で6か月間渡航する国際トレーニング制度、遠隔コラボレーションシステムにより、高いレベルでの成長と活躍が期待される。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導體制の整備については、国際トレーニング制度を実施しているほか、遠隔コラボレーションシステムで、データ共有・共同作業をはじめ、環境に関する汎用性の高い最先端技術を学生が体得できるような基盤整備をしていることも特徴である。また、学生たちが互いに教えあう気風などもRAミーティングなどに生かされている。プログラムを受講していない学生と比較し、学生に対するキャリアパスのロールモデルの豊富な提示や学生の視野の広がりにつながる取組の着実な実施が確認できた。

優秀な学生の獲得については、ウェブのほか、海外では国際会議・セミナーの機会などを活用しGESL（グローバル環境システムリーダープログラム）セッションを開催し、国内では慶應丸の内シティキャンパスを活用し広報するなど、国内外からの学生募集に努めていることは評価できる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、メジャーについては所属研究科の博士学位取得基準を満たすことのほか、原則6か月以上の国際的な活動に基づく「国際トレーニング成果発表」、国際会議での2回以上の英語による発表、マイナーについては、研究成果報告書の提出および研究成果の発表などが求められており、厳格な質保証システムが構築されている。

支援期間終了後は学内の基金を活用してプログラムを継続する方針であり、また全学的な大学院改革について、メジャーとマイナーの複数専攻制、学際的な交流など、本プログラムの利点を計13の研究科全体に拡大したいという大学側の意欲的な方針が示され、事業の定着・発展が期待される。